040406

令和４年度第１学期始業式　校長講話

令和４年度も、皆さんや先生方と過ごす小川高校の生活を大変楽しみにしています。苦しいことくじけそうなことも多々あるかもしれませんが、一緒に小川高校を盛り上げていきましょう！

突然ですが、普段私たちの使うクリップという文房具があります。ある時一人の青年が何の気なしに針金をもてあそんでいました。色々な形ができる中で、偶然に今のクリップの形ができた時、ふと、この針金の間に書類を挟むと便利なのではないか、と考えたのです。この特許をとって青年は企業家として大成功を収め、私たちは書類の整理をすることが簡単になりました。その発端は無意識にいじっていた針金の形に他の価値を見いだしたことによります。私などは、それを見ても単に針金がねじれた物体であり、これに物を挟む機能を持たせようという発想は出てこなかったと思います。そこが独創性があるかないか、発想の転換ができるかどうかという差なのでしょう。同様に付箋という文房具も発想の転換から生まれたものだそうです。ある会社の製品開発の方が、くっつかない糊を作ってしましました。完全な失敗作です。しかし、その製品開発者は、ある程度くっつき簡単にはがすことができる糊をメモ用紙のような紙に使ったら…ということを思いつき、現在広く使用されている付箋ができ上ったということです。

こうした話を聞いて「よし、自分も何か今までにないような物を作ってみようかな」と考えるかもしれませんが、ただ単に今までの常識を壊したからといって斬新なアイディアが出てくるわけではありあません。

発明と言えば、歴史上の人物としてエジソンが思い浮かびますが、そのエジソンでさえ「天才は１パーセントのインスピレーション（inspiration 直感）と９９パーセントのパースピレーション（perspiration（汗＝努力）から生まれる」という有名な言葉を残しています。つまり、斬新なアイディアが生まれるには、その根底に既存の知識や技術の習得が必要である、ということです。こうしたアイディアを紡ぎだす独創性といったものは、バックグラウンドとして溜まっていたものが何かと結びついて生まれるものです。その意味でも、できるだけ広い勉強をしておいたほうがいいと思います。

皆さんが日々授業や探究の時間で学ぶこと、またホームルームや部活動等で経験することは、すべてではないにせよ必ずいつか何かと結び付き、自分にとって周りの人にとって新たな考えや形あるものを創り出してくれると思います。先日読んだ本にも「人生の中で概して１７から１８歳の頃は、記憶力や思考力が一番伸びて広がりを見せることができる」と書いてありました。

今年度も、伸びしろ満載の小川の生徒の皆さんの日々のパースピレーション（努力）に期待します。疲れたら休んだり人に頼りつつがんばれるときはがんばる生徒の皆さんを先生方一同精一杯応援します。